

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

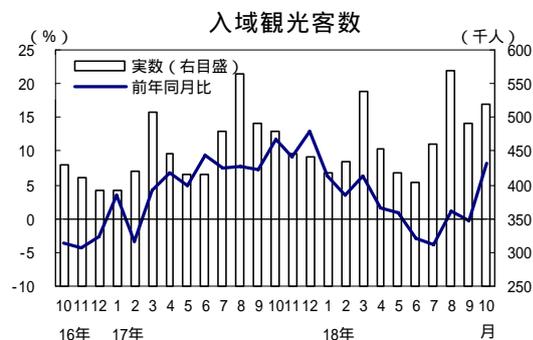
なし。

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、7月は、相次いで発生した台風と定期クルーズ船の運航休止の影響により前年を下回った。8月は、上旬は台風の影響が懸念されたが、中旬以降は好調に推移したことから前年を上回った。9月は、上旬に大きく伸びたものの、中旬の台風の影響及び連休が前年より1回少なかったことから前年を下回った。10月は、世界のウチナーンチュ大会等イベントの開催及び航空会社のキャンペーンが実施されたことにより前年を上回った。

なお、8、10月は過去最高、7月も過去2番目を記録し、引き続き高い水準で推移している。7～9月期における主要ホテルの客室稼働率については、リゾートホテルは堅調だったが、那覇市内ホテルが新規ホテルとの競争激化等により前年を下回ったことから、全体では前年を下回った。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
入域観光客数	1,368	1,392	1,276	1,520
(前年比)	11.3	5.4	0.2	0.9
ホテル稼働率(前年差)	4.7	0.3	0.0	1.6

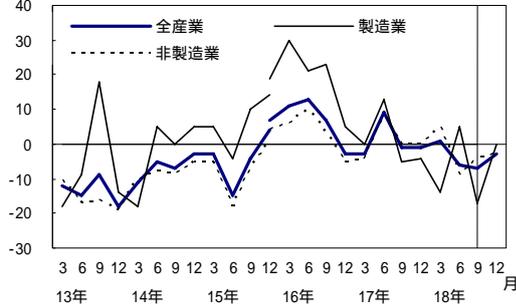
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光工商部調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」幅が拡大している。

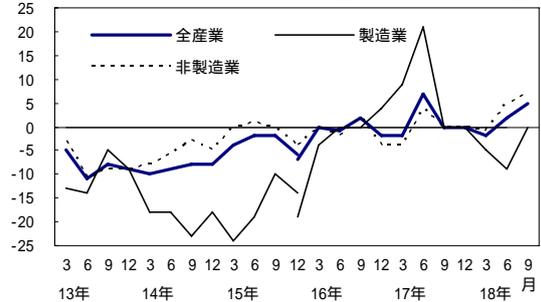
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



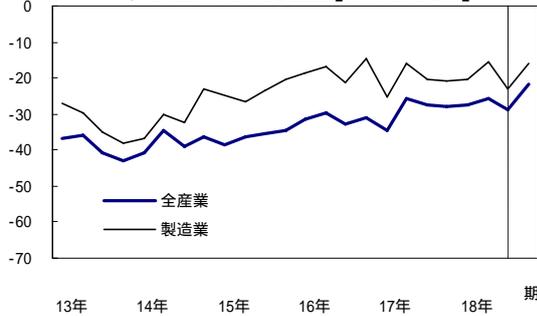
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「季節的な催事として運動会があるが、特別荷物の量が増えるなど大きな影響は無い。また、大きく荷動きがあるような環境の変化もみられない(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

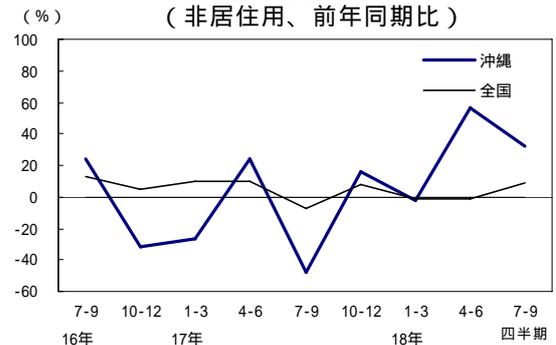
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度画
全産業	21.1	15.2(4.3)
製造業	2.8	7.8(6.1)
非製造業	23.6	18.4(4.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。石油・電力を除く。

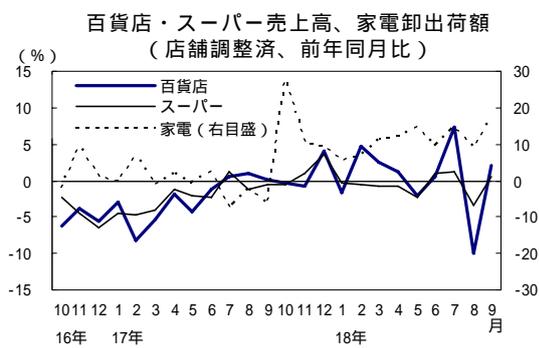
建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

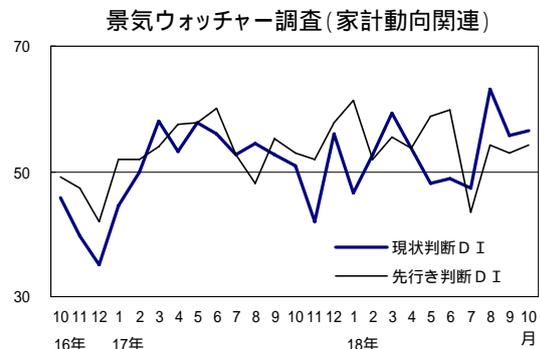
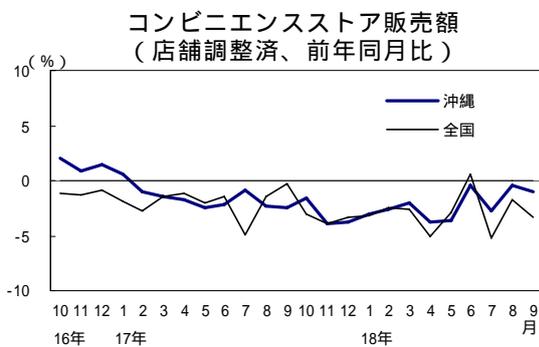
(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額
 百貨店は、7月は、中元商戦の前倒しにより食料品が好調だったことから、前年を上回った。
 8月は、前月の反動により食料品が不振だったことから、前年を下回った。9月は、身の回り品が増加したほか、衣料品でも秋物を中心に持ち直しの動きがみられ、前年を上回った。
 スーパーは、衣料品、住居関連が不調だったことから前年を下回った。
 家電は、大型量販店の新規出店効果が持続する中で、薄型タイプの値ごろ感や地上波デジタル放送開始効果によりテレビの売行きが好調だったことから前年を上回った。
 景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]
 「先月同様、客単価は前年並みに推移しているが、来客数減少が止まらず、この傾向がしばらく続く。前半は運動会等による特需で下げ止まりだったが、それも毎年のことである。特に夕方から夜間にかけての来客数が減っている傾向がある(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
百貨店	1.4	1.7	0.1	0.0
スーパー	1.5	0.6	0.7	0.6
家電卸出荷額	15.1	8.3	11.8	13.8
コンビニ	3.1	2.6	2.5	1.4
景気ウォッチャー	49.7	52.9	50.3	55.3

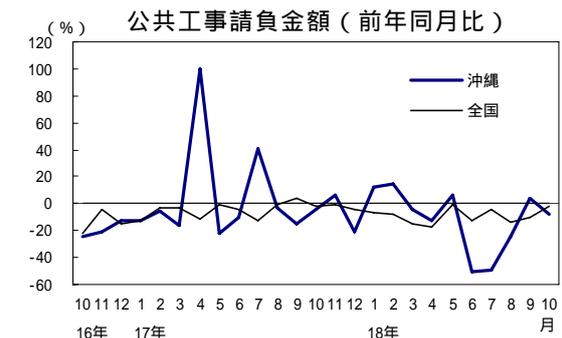
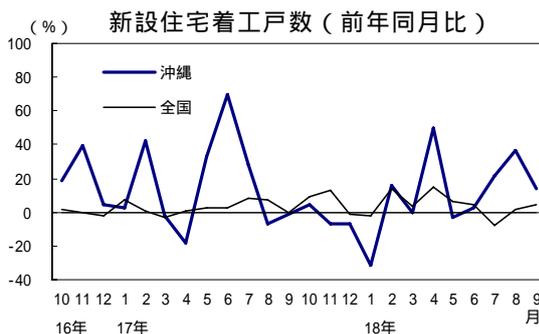
- (備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。
 2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。
 3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

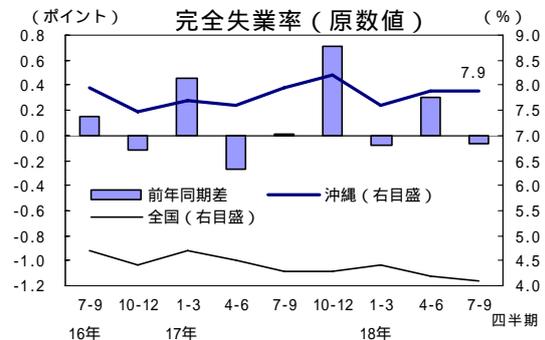
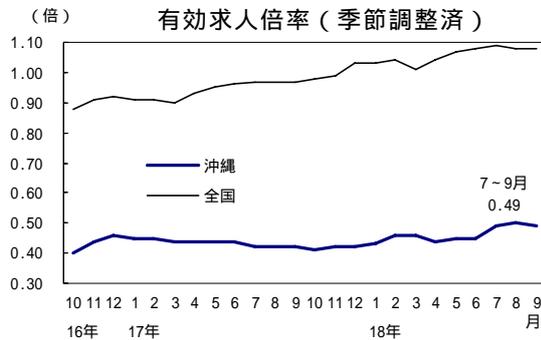


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

「県内の採用者数では中小企業が大多数を占めているが、厳選あるいは少数精鋭主義の傾向が出始めた感がある (学校 [大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

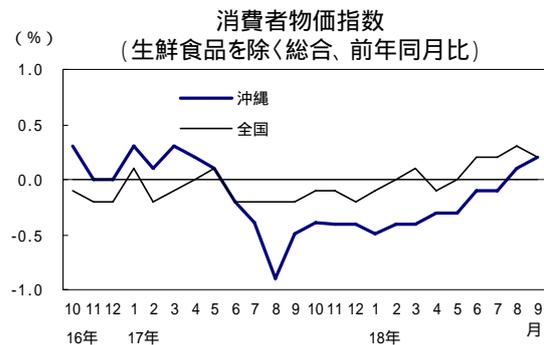
(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加しているものの、負債総額は減少している。

10月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月	18年10月
倒産件数	19	14	18	32	9
(前年比)	5.0	22.2	18.2	52.4	80.0
負債総額	36	56	53	90	26
(前年比)	97.5	20.4	72.2	67.7	138.2



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・施設利用者は、7月は前年同月比で97.1%だったが、今月は10月26日現在で101.9%となっている。10月に世界のウチナーンチュ大会が開催され、沖縄への入域観光客も前年同月より増加していると推測できる。来園者は、修学旅行が中心である (観光名所)

<先行き>

・宿泊予約状況から、前年を上回ると予測される。ただし、12月は若干弱含みである (観光型ホテル)

